

平成29年度学校関係者評価書

<<評価の視点>>

- 教育活動や学校運営に向けた取組が適切かどうか。
- 学校の自己評価が適切に行われたかどうか。

(1)「知」の取組

学習指導の工夫・改善と個に応じた指導の充実による学力向上

学力の向上は保護者の切なる願いと考える。学校が行っている「タトレ」や「スキトレ」「学力コンテスト」などは今後も続け、基礎的・基本的内容が身に付くよう指導を続けてもらいたい。今年実施した「宅習ノート展」や「宅習集会」の後、生徒の宅習内容が改善したということなので、次年度も継続して行い、手本となるものの紹介や勉強方法を教え、家庭での学習を自分でできるようにしてもらいたい。

(2)「徳」の取組

社会の変化に対応できる能力と郷土を愛し他人を思いやる豊かな心の育成

一ヶ月の読書冊数や図書室の本の貸し出し数が増えていることは、昨年度も課題として上がっていた。今年は昨年よりも改善し、貸し出し数が大きく増えたことは良い傾向である。しかし、保護者のアンケートを見ると評価が低いので、家庭で読書をする習慣づくりへの呼びかけを保護者にしていく必要がある。「西門川心を育てる5箇条」については、教師の共通理解のもと、継続的な取組を通して心を育成して欲しい。「立ち止まってのあいさつ」は生徒会活動として生徒が意識して取り組もうとしているが、先生方からの指導も必要だと思うので、声かけや注意なども時には行い、全員がいつでも「立ち止まってのあいさつ」ができるよう指導してもらいたい。

(3)「体」の取組

体力向上と健康安全に対する意識の高揚

「体力向上週間」を年間5回行い、生徒と一緒に先生たちも一緒に走っていらっしやるのが素晴らしい。次年度以降も続けてほしい。また、長距離走大会も毎年楽しみにしている。「早起き、早寝、朝ごはん運動」と「性教育」については、職員の評価が低いので、来年度は実践し、成果が現れるよう計画する必要があるのではないかな。

(4) 保護者・地域との連携・融合

保護者や地域住民の期待に応える、地域に根ざした教育活動の推進

毎月2回、地域に回覧される学校便りや学校のホームページで学校の様子がよくわかる。特にホームページは毎日更新されているので閲覧する人の数も今年度は大きく伸びていると思う。今後も継続していくとよいと思う。全校生徒39名のうち、西門川地域の生徒が7名しか在籍していないので、生徒と接する機会が多くあると良い。「西門川の教育を語る会」については、保護者の認識度が毎年低い傾向が見られる。PTA総会や参観日で趣旨の説明をしたり、会の中で出た意見などを学校便りやホームページ等で発信したりしていくと良いと思う。